

寒ちぢみほうれん草の栽培

作型

●；播種

■；収穫

	9月	10月	11月	12月	1月	2月
露地	●	●		■	■	
ハウス		●	●		■	■

播種期は、栽培地やその年の秋冬時の気象変化にもよるが、概して1日の平均気温で20℃以下になる頃が目安となる。

作型の特徴

ほうれん草の寒さに強いという特性を生かし、寒さに遭遇させること（4℃以下に10日間以上）により、甘味の増した食味にこだわった差別化できる『寒ちぢみほうれん草』を作る栽培です。

畑の準備

施肥例（10a当たり）

肥料名	使用量
堆肥	2,000 k g
苦土石灰	60 k g
海物語（ぼかし肥）	50 k g
スーパーMMB 有機 020 号	80 k g
CDU たまご化成 S555	40 k g



排水良好なほ場を選び、必ずpH矯正を行ってください。『こだわり商品』の生産を目指すためには、有機質資材を主体に施すことが望まれます。

播種量

種子量は10a当たり3㍓、シーダーテープでは3,000～3,500m必要。

①おすすめ品種

朝霧、冬霧7

②栽植密度

幅1.0～1.2m、高さ15～20cmの平ベットをつくり、条間20cmの条まきにします。ベットが広いと中心部に水が溜まりやすく、湿害の原因になりやすいので注意すること。播種は均一に丁寧に播き、覆土を1.5～2cm行い、軽く鎮圧する。覆土の厚さのむらは、発芽、生育のむらにつながるため、播種前の整地が重要となる。

除草剤の散布

期間の長い作型なので、雑草対策も大切である。一般に利用される除草剤は、「アーシラン」や「ラッソー」である。10a当たり150㍓の水に標準量の除草剤を溶かし、覆土後に噴霧機で全面散布する。ほうれん草の発芽後は薬害が発生するので、絶対に散布してはならない。

管 理

①間引き

荷姿、袋詰めの関係上、草姿は開張性が良いので、株間8～12cmと広めにします。

- ・ 播種適期前半では12cm位
- ・ 播種適期後半では 8cm位

②葉面散布

生育促進、品質向上の為、次のような葉面散布剤を行います。「PK物語」を使用し本葉の出始めに3,000倍、本葉5～6枚時に2,000倍、生育後半に1,000倍で行います。葉色が淡い場合は、「アミノメリット黄」の500倍液を葉面散布します。

③不織布の被覆

収穫7～10日前よりパオパオ90等のべた張を行うことにより、葉の汚れや痛みを少なくします。

④病虫害防除

作型的に病虫害の発生が少ない時期でもあり、無農薬栽培をおすすめします。耕種的防除を積極的に行ってください。

収 穫

葉長20～22cmになったものから順次収穫し、枯れ葉、黄変葉等を取り除きます。尚、出荷直後に袋詰めを行うと、葉や葉柄が折れやすいので、早朝収穫した場合は、当日の夕方に袋詰めを行うと良いでしょう。出荷方法は、12号のFGフィルムを用い、FGフィルムの両面から葉の表面が見えるように1袋当たり200g（入目5%）の量目で袋詰めします。